



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

監事 松島 美一

ブリテン 伊藤 誠彦

担当主事 青木 一弘

会長 古田 和彦

副会長 金子 功

書記 古賀 健一郎

会計 大高 治

直前会長 金子 功

<今月の聖句>

押川 沢江

「そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。」

(ルカによる福音書 2章 16～18節)

今月のひとこと

『地球温暖化と自然災害』

古賀 健一郎



各地に甚大な被害をもたらした台風19号。大型で強い勢力のまま、本州に上陸した背景には、日本近海の「海水温の上昇」があった。頻発する強い勢力の台風の原因とされるのが地球温暖化だともいわれている。

9月に国連気候行動サミットが開催され、グテーレス国連事務総長は「77カ国が2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするとの目標を掲げ、70カ国が2020年までに国としての対策を強化させると表明した」と話した。「しかしこれらの77カ国に、炭素汚染大国である中国、アメリカ、インド、ロシア、日本は含まれなかった」とマスメディアは報じている。これではいまだ国際社会が一

致団結して、具体的な温暖化対策に取り組んでいるとは言えない。最近世界の至るところで起こる自然災害(台風の強大化、大雨、地震、洪水、干ばつ、高温、熱波、森林火災…等)によって多くの方々が命を落としたり、長期間の被災生活を余儀なくされている厳しい現実がある。

このままでは人類社会の存続すら危ういということに、我々の世代がいよいよ加減気づかなくてはならない時がまさに今である。もう待たなしの温暖化対策に、国際社会のすべての国が取り組まないと、取り返しのつかないことになるであろう。しかし世界は自国第一主義が広がる中で、国際協調体制が崩壊しつつある。第二次世界大戦後の世界は、「二度と愚かな戦争はしない」という固い決意の下で連携や協調を模索してきたが、現況下では、平和と反対の方向へ進み、軍事力の増強を進め、軍拡競争の時代に逆戻りし始めている。

ニューヨークにある国連本部の壁には、「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」という聖書の言葉が世界共通の願いとして記されている。自国第一主義の国益最優先を実行して自分だけ繁栄しても、世界が絶滅の危機に陥れば元も子もなくなるのだ…。今こそ、待たなしに、国際社会が一致協力して、軍事費をさらに削減することで「平和の配当」を受け取る政策を実行に移し、そして具体的な温暖化対策に、平和の配当を惜しげもなくつぎ込むべきだ!

16歳のスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが、国連気候行動サミットの席で、世界のリーダーを前にして「あなたたちが話しているのは、お金のことと、経済発展がいつまでも続くというおとぎ話ばかり。恥ずかしくないんでしょうか!」と。地球温暖化に本気で取り組んでいない大人たちへのこの若者の叱責の声に、私たちは真摯な態度で耳を傾けなければならないと思う。

<2019年11月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 7名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 4名 合計 11名	75 % (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<12月の行事予定>

EMC/E, YES

日	曜	時間	行事内容	場所
3	火	19:00	Y-Y 's 協議会	中央Y
12	木	15:00	第二例会	中央Y
12	木	18:00	例会・忘年会	廣東飯店
19	木	18:00	横浜Yクリスマス会	とつかY

「11月第一例会報告」

齋藤 宙也

日時：11月14日(木) 18:30～20:35

場所：横浜中央YMCA 8階811号室

出席者：青木、伊藤、大高、金子、古賀、齋藤、古田

ゲスト：笠間礼美 (Yスタッフ)、石井亮馬、菊井晶子、室崎万理花 (以上、ユースリーダー)

齋藤ワイズの司会により定刻に開始。古田会長の開会点鐘、挨拶に続いて、ワイズソング及びワイズの信条唱和。松島ワイズが担当予定であった今月の聖句の朗読と解説は、古田会長が代行。古田会長によるゲスト紹介、食前感謝に続いて食事に入った。

卓話は、今年のユースボランティアリーダーズフォーラム (以下「フォーラム」という。) に参加した方の中から、3名のリーダーにお越しいただき、フォーラムの中身や、参加した感想などを聞いた。



卓話者のリーダーとYスタッフ笠間さん(左端)

フォーラムは、基調講演から始まり、丸2日かけてグループディスカッションをする一方、合間にはカードゲーム、キャンプファイヤー、カヌー乗船などを楽しんだということであった。

参加のきっかけは、先輩から「絶対勉強になるから行ってきなよ。」と勧められたというほかに、理想のリーダー像と自分の現状との違いに悩んでいたからという殊勝な方もいた。

基調講演では、「YMCAは未来を担う子供たちを育てる

団体である。」「子供たちの最善の利益は何かを考えて活動する必要がある。」ということを学んでいた。

また、グループディスカッションでは、大要「子供を理解し、子どもに分かるように話すこと、子ども自身が自ら気付くように仕向ける」といったことが議論された。特に共通していたのは、リーダーは先生と生徒のような上下関係ではなく、共に成長する存在であるという発想である。

フォーラムに参加したことで、自分のあこがれている (理想の) リーダー像を理解したとか、バスケットボールを教える際に、子供にとって最も良いこと、すなわち自分らしく活動し、楽しんでもらうことを意識しているなどの成果が説明された。

質疑応答でも、YMCAと関わったきっかけや、リーダーを続けている理由など、非常に活発なやり取りがなされた。これまで、ワイズメンズクラブ東日本区が金銭的及び人的に援助して毎年開催しているにもかかわらず、ワイズメンズクラブとの関係が参加者に余り認識されてこなかったという。

今回の卓話は、フォーラムの様子を知ることができる機会であったと同時に、参加者側はどうフィードバックしてもらうかについて考えるきっかけとなった。

卓話の後には、ゲストを見送ってビジネスを行い、定刻をやや過ぎて終了。

ロバ献金は、6,500円であった。

「第22回横浜YMCA チャリティーラン報告」

大高 治

参加チーム103、ランナー515人、支援金515万円、ボランティア278人、その他の来場者234人、総勢1,027人、弁当943人分という横浜YMCAの一大行事は11月16日(土)横浜市の名所、西区みなとみらい21地区の臨港パークで挙行されました。

360度雲一つない秋晴れ、こんな日は1年に何日あるだろうか。1日中そよ風の好日でした。この同じ国土は9月、10月、15号、19号、21号と台風が続き、日本各地に大きな災害をもたらしたのです。

汐入の池では障がいのある子供たちのダンスや横浜YMCAチアダンスチーム、Step in the life ダンススクールのパフォーマンスがオープニングセレモニーの前座を務め、総合司会の青木主事による黙祷と祈りの言葉と続き、開会式が行われました。

開会宣言は森田幸二郎大会実行委員長 (沖縄クラブ) の代理として湘南・沖縄部次期部長の古田和彦ワイズ (横浜クラブ) によって高らかに発せられ、横浜YMCAを代表して佐



横浜クラブ参加者(写真提供: つつきクラブ今城さん)

竹副総主事の挨拶、代表チームによって選手宣誓が行われムードが高められた。

10:30 管楽器バンド演奏に続き、パフォーマンスランが開始されました。そしてCコース、Bコース、Aコースの順でリレーがスタートして行きました。当クラブ協賛の中央学童合同チーム、ゼッケン72番の5名はBコースを元気に駆け抜けました。

湘南・沖縄部は今年も大勢が応援に駆け付け、横浜ワイズメンズクラブからの9名とつづきクラブの3名は受付、弁当お茶、清掃を担当。厚木クラブの5名、鶴見の3名、鎌倉の5名は抽選を含む本部業務を担当。とつかクラブ5名は会場係で誘導に務めました。ワイズのメンバーも他の皆さまと同じピブスを着ましたが、ワイズはワイズのPRが必要です。独自のピブスを着ることも必要ではなからうか。

プログラムは順調に進み、再び夕入の池で閉会式が執り行われました。各コース1位から3位までの表彰、また特別賞が古田会長から、寄付目録が横浜YMCA賛助会の西堀様から、そして横浜YMCA理事長の工藤様から感謝の挨拶がなされ、無事全プログラムを終了しました。

多くの留学生、障がいのある子供たちも参加した笑顔溢れる盛大な大会でした。だが、参加チーム数、参加関係者数、大切な募金総額も前の3年間のレベルにわずかに及ばなかったことはいささか残念でもあり、今後の課題の一つと思います。

横浜クラブからは青木、伊藤メン・メネ、大高、金子メン・メネ、古賀、齋藤、古田の9名が参加しました。

「中央YMCA ウェルカムフェスタ」

伊藤 誠彦

11月23日(土・祝)、ウェルカムフェスタ2019が開催された。ワイズの受け持ちは例年通り602教室のバザー会場。前日の午後にバザー献品の値付け作業を実施した。

バザー当日は午前9時に集合、雨模様で天候に恵まれず客足が心配されたが杞憂に終わり、バザーの売上はここ数年では最高の142,726円を記録した。

今回のバザーの特色は、品物の蔵出しから、商品の陳列、値付け作業、販売促進、売れ残り商品の来年に備えての格納まで、大勢の方々が参加して下さったことにある。ワイズ会員に加えて、YMCAスタッフの方々、中央Y運営委員の方々、専門学校の学生さん達と大勢の方々が協力して下さいました。

ワイズ参加者は、準備の日も含めて、青木、伊藤メン・メネ、大高メン・メネ、金子メン・メネ、古賀メン(22日のみ)・メネ、古田メン・メネ、松島(23日のみ)であった。23日は古賀さんの代わりに古賀コメント(ご子息)が参加され、松島



ワイズとともに大いに売り上げに貢献頂いた。

「ワイズポテト寄贈」

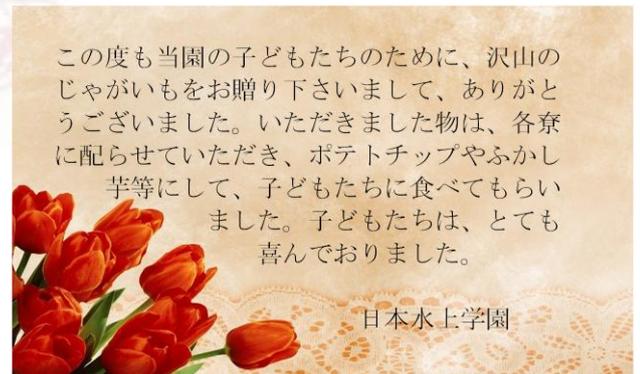
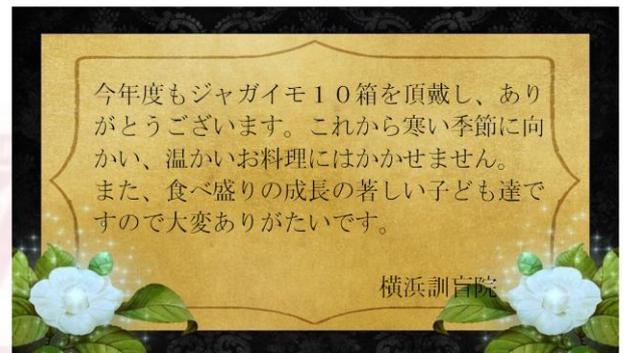
古田 和彦

11月6日(水)、ワイズポテトを中区にある福祉施設2か所にお届けしました。1か所は横浜訓盲院、元来は目の不自由な方々のための入所施設ですが、それ以外の子供たちも生活している施設です。もう一つは日本水上学園、こちらは、初めは水上生活者の子供たちの施設でしたが、訓盲院同様、児童養護施設として、事情があって家庭での生活ができない子供たちを受け入れています。

それぞれの施設にワイズポテト10箱づつを寄贈いたしました。生活をしている施設ですので、皆さんで召し上がってくださるとの報告をいただいています。

横浜訓盲院では施設長の伊藤紀子さんが、日本水上学園では園長の佐々木亮さんが対応して下さり、後日、礼状をいただきました。青木ワイズ、古田ワイズでお届けしました。

(下記は、横浜訓盲院の伊藤施設長、および、日本水上学園の佐々木園長からいただいた礼状の一部抜粋です。)



「近況報告 大川小学校事件に想う」

齋藤 宙也



近況というには少し昔の話になるが、いわゆる大川小学校事件について、最高裁が、10月10日に県と市の上告を棄却する決定をしたことについて取り上げたい。

本件において、一審は現場の教員のミスリード(地震が起きてから津波が来るまでの対応)について過失を認めたが、二審は法的責任の所在を現場の教員から組織としての学校、教育委員会に転換し、震災前の防災対策の欠陥について過失を認めた。

私は、仙台で開催された今年のワイズアジア地域大会に参加したが、エクスカーションは、迷わず大川小学校を通るコースを選んだ。そこで現場を見たら、明らかに、学校に隣接する裏山に避難させる方が合理的であることが分かる。実際の避難経路は、わざわざ水かさが増した川に向かっていくというお粗末なものであり、当時の想像できないほどの緊迫した状況を考えても、これは安全配慮義務違反だと納得させられた。しかし、教員も犠牲になっており、教員遺族が苦しめられる状況にあった。

正直なところ、原因を当時の現場の判断に求めた方が理屈としてはしっくりくる。事前の防災対策から児童の犠牲まで持っていく方が、距離があることは間違いない。しかし、高裁としては、法論理の許すぎりぎりの範囲で、県と国の責任を認めつつ現場に委縮効果をもたらさないという3つの要請を何とか満たすための落としどころを探ったと言える。法律家としてできる最大限の解決であったと思う。これであれば、現場の教員が萎縮するとの批判は当たらなくなる。

大川小事件の原告団は、「学校（教師）は、震災時に偶然居合わせた他人ではない」というところから出発している。考えてみれば、それは当然である。一方、先のエクスカーションの語り部の方は、「教師が児童の命などどうでもいと思っていたはずはない。恐らく、最期の瞬間、教員たちは児童を抱き締めていたはずだ。」とも指摘した。やはり、現場の教員だけを非難するのは一面的に過ぎることがうかがえる。結局、当事者の多くが亡くなってしまったため、真実はいまだに解明できていないようである。幾多の人命が失われたということしか、確たる事実はないともいえる。しかし、これを機に、大災害だからしょうがないというのではなく、行き当たりばったりでない避難ができるよう学校現場が見直されていくことを期待したい。

第二例会報告

古賀 健一郎

日時：11月28日（木） 17:00～18:30

場所：横浜中央YMCA811号室

出席者：青木、伊藤、金子、大高、古賀、古田

横浜YMCA職員 服部(中央)&内田(北Y)

行事予定 及び協議・報告事項の確認を行った。

1) 今後の行事予定の確認

1/18 Y-Y's 合同新年会 & 2/11 横浜YMCA会員大会は横浜クラブ第1例会を兼ねる。

2) 10/19 第4回ワイズチャリティーサッカーフェスティバルの反省と今後については、横浜YMCA担当者、協賛ワイズの横浜クラブと横浜つづきクラブと日程を調整して三者で協議することにした。

3) 12月12日（木）横浜クラブ例会・忘年会には今迄例会に参加されたゲストや、ウェルカムフェスタに参加された中央YMCAの運営委員をもお誘いする。

4) 12月12日（木）15時より中央Yにて第二例会を開き、「横浜クラブ90周年記念行事(2020年12月12日)」実施の基本的な構想（記念式典・礼拝・例会含む）について集中的に話し合うことにした。

5) ブリテン1月号編集計画



担当主事 青木 一弘

■横浜中央YMCAウェルカムフェスタのご報告

横浜YMCA国際・地域協力募金の一環として、横浜中央YMCAでは、11月23日（土・祝）に、ウェルカムフェスタを開催いたしました。横浜ワイズメンズクラブの皆様には、バザーのボランティアとしてお手伝いいただきました。当日はバザーの販売で約18万円の募金が集まり、ウェルカムフェスタ全体では918,177円の募金が集まりました。事前準備や当日の販売のボランティアをして頂いた、皆様に、心より感謝いたします。

●2019年度クリスマス会のお知らせ

2019年度YMCAクリスマス会のお知らせです。クリスマスの喜びを皆様と共に分かち合いたいと思います。皆様のご参加お待ちしております。

日程：12月19日（木）午後6時30分～午後8時30分

会場：湘南とつかYMCAホール

開場：午後6時00分

説教：上山修平牧師（日本キリスト教会 横浜海岸教会）

祝会：午後7時35分～8時30分 祝会参加費(1,000円)は、当日受付にてお願いいたします。

12月例会プログラム

日時：12月12日（木） 18:00～20:30

場所：廣東飯店（横浜中華街）

司会：金子ワイズ

第一部 例会

1. 開会点鐘および挨拶 古田会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 全員
3. 今月の聖句 押川メネット
4. ゲスト・ビジター紹介 古田会長
5. ビジネス・報告 古田会長、他
6. *Happy Birthday* 古田伽知子

第二部 忘年会

1. 食前感謝 押川メネット
2. 会食

例会報告 大高ワイズ

1月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
18	土	18:00	Y-Y's 合同新年会・横浜クラブ第一例会	
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080